

病院薬剤師

広がる活躍のフィールド

専門的役割の認知が課題に

病院地下の閉ざされた部屋で調剤に明け暮れる——そんな病院薬剤師のイメージは既に過去のものだ。医薬分業の進展によって、外来患者の調剤業務は院外の保険薬局へ移行。そこに投じていた労力を、入院患者のケアに振り向けられるようになり、地下を離れ病棟で活躍する機会が増えてきた。

患者のもとへ足を運び、服用方法を説明したり、副作用の発現をチェックしたりする。カルテに目を通して検査値などを把握し、薬剤が的確に使用されているかを確認する。ナースステーションにも出入りし、看護師や医師と患者情報などをディスカッションする。

頻繁に顔を見せるうちに他職種との連携が密になり、処方設計など医療の中核にも関わっていく。

かつては一部の先進的な病院だけで組み込まれていたこれらの業務が、全国各地の病院で当然のように行われている。病棟にサテライト薬局を設ける病院も、いまや珍しくない。

専門分野での活躍も目立つ。ICT（感染制御チーム）など院内の各種専門委員会には、概ね薬剤師が委員の1人として参加している。専門分野の知識や技能を認定する制度も日本病院薬剤師会によって創設された。既がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師が誕生、今後その数は増える見通しだ。精神科薬物療

法、H I V感染症、妊婦・授乳婦薬物療法などでの認定も検討されている。

病院薬剤師が活躍するフィールドは広がった。とはいえ、院内での認知度はまだ十分とは言えない面もある。

日病薬の調べでは、病院の意志決定を行う会議のメンバーに、薬剤部門長が入る病院の比率は77%。事務部長98%、看護部長97%など他部門とは格差がある。「人事権がない」「薬局長だが主任格」など、権限や評価に不満を抱く薬剤部門長は少なくない。

いかにして薬剤師の役割を、他の医療スタッフや経営陣に認めてもらうかが、今後の課題の一つだろう。先進的な業務を展開する病院薬剤師を取材する機会が多いが、「ある分野の知識を身につけるため、床から積み上げて肩に達するほどの英語文献を読みあさった」などのエピソードをよく耳にする。その姿勢を見ならい、医療現場に飛び込んでいってほしい。

ドラッグストア業界

再編に向けた動き注目

新たな販売制度にらみ加速

昨年 6 月、46年ぶりに医薬品販売制度にかかる薬事法改正が行われ、2009年 4 月から完全実施の予定だ。詳細は徐々に今後決まっていくだろうが、医薬品小売業に重大な影響を与えることは間違いない。一般用医薬品（大衆薬）の販売ではリスク分類、登録販売者資格といった問題がある。これまで長期にわたって縮小傾向を続けてきた大衆薬市場にとって、インパクトは非常に大きい。ドラッグストアをはじめとする小売業も、あり方を変えていかざるを得なくなった。

こうした社会的変化・法的环境が激変する中で、ドラッグストア業界では既に生き残りをかけた再編・淘汰が始まっている。同一業態間の連携強化、垣根を越えた合従連衡の動きなどが、今年はさらに加速するものと予想される。

ドラッグストア最大手のマツモトキヨシ

が、全国各地の中堅ドラッグストアと提携した「マツキョグループ」、ツルハホールディングス（以下ツルハ）やクラフトなどの有力企業で構成する「イオン・ウエルシア・ストアーズ」の2グループを軸に、富士薬品が傘下企業で構成する「グループドラッグ」、さらにセガミメディクス、コクミン、セイジョーといった東西の大手企業を含む「WINドラッグ」などの連合体があり、共同仕入れ・共同販促等を行っている。

最近では昨年11月、ジップ・ホールディングスとライフォートが新会社「アライドハーツ・ホールディングス」（株式移転による経営統合）を設立。またセガミメディクスとセイジョーが株式持ち合いを軸とした資本・業務提携を結び、ツルハが関東の中堅ドラッグ（くすりの福太郎）を傘下に納めるなど、上場企業による動きが相次いで

いる。

ドラッグストア各社とも、郊外型店舗を中心に売り場面積を拡大し、医薬品や健康食品、化粧品はもとより、一般食品などまで品揃えを充実させている。従来の出店地域を越えてドミナント（地域集中）展開する動きも活発で、当然ながら他業態との競合も激しさを増している。

今後の医薬品販売制度の変更を睨んだ新規事業への取り組みも含め、再編機運にあるドラッグストア業界の動向が注目されている。



調剤を併設し専門性強化を打ち出す企業が増えている

どうせなら、頭痛も肩こり痛もまとめて、ね。

痛くなったら、すぐ
セデス[®]



鎮痛成分が
痛みに届く。
ビタミンB1が
肩のコリをほぐす。

【医薬品】
肩こりは、頭痛の原因にもなる。それは、意外と知られていない事実です。
セデスVは、この2つの関係に着目。痛みのもとになるコリをほぐす、ビタミンB1を加えました。肩こり痛にも、頭痛にも、まとめて効く。セデスV、新発売です。



この医薬品の「使用上の注意」をよく読んでお使い下さい。特にアレルギー体質の方は服用前に医師や薬剤師等にご相談下さい。
お問い合わせ先：シオノギ製薬医薬情報センター
大阪 06-6209-6948 東京 03-3406-8450
<http://www.shionogi.co.jp/wellness/medicine/>
シオノギ製薬
登録商標 2006.11

「スペシャリティーファーマ」を目指して。

当社は、日本薬局方が制定された翌年の1888年（明治21年）に、日本薬局方医薬品メーカーとして創業いたしました。以来、堅実経営を旨とし、医薬品の研究・開発・製造・販売を通じて、医療の発展に寄与し、健康と福祉に貢献できるよう努力しております。

- 会社概要
- 創 立 昭和11年11月5日（創業明治21年）
 - 資 本 金 2億8500万円
 - 事 業 所 本社・津工場・中央研究所
 - 社 員 数 500人
 - 事業内容 日本薬局方医薬品その他各種医薬品等の製造販売
- 募集要項
- 募集職種 MR
 - 初 任 給 大卒：215,000円
修士：233,600円
 - 賞 与 年1回（7月）
 - 休日・休暇 完全週休2日制（土・日・祝）
 - そ の 他 社保関係完備



丸石製薬株式会社

*詳しくはホームページをご覧ください以下までお問合せ下さい。
マルイシホームページ <http://www.maruishi-pharm.co.jp/>
お問合せ電話番号：06-6964-3100 人事・総務部 採用担当